

中国における屋気楼事情

- Sony Explora Science 索尼探夢 (ソニータンモン)での実験 -

富山県立滑川高等学校

教諭 木下 正博

1. はじめに

現在、中国は近代化が進み、特に北京では次期オリンピック開催地でもあることからその発展は著しい。その中において、科学館「Sony ExploraScience / 索尼探夢 (ソニータンモン)」は北京索明科普樂園有限公司を運営母体に、ソニー中国の全額出資による現地法人として、中国における科学普及を目的として2000年10月より北京市の東方広場(北京、故宮博物館近くにある商業複合ビル)に開設された科学館である。

2. 科学実験イベント

Sony ExploraScience/索尼探夢は毎年10月中旬～11月末に、特別イベント「楽しい科学の実験広場」を実施している。期間中は、中国国内より科学実験を複数誘致し、中国の子供達に理解し易く、親しみもてる実験会を催している。

3. 科学実験広場への参加

本実験会には、毎年、日本からも数名の実験講師が参加している。2004年は中国で屋気楼の実験を披露するためSony Explora Science/索尼探夢の招きで、

2004年10月20日(水)～10月25日(月)の5泊6日の日程で中国を訪問した。実験会は23日、24日の2日間行った。



Sony Explora Science/索尼探夢の概要



「科学実験広場」のパフレットより抜粋
2004年は31実験を実施(内、日本からは6名参加)

4. 蜃気楼実験の実施

実験は1日6回行い、砂糖水でつくる蜃気楼発生実験や自作の蜃気楼発生装置を提示して行った。また、日本で撮影した蜃気楼のビデオなども参加者に見てもらった。

通訳や現地スタッフを交えての実験となったが小、中、高校生からは「なぜ景色が伸びたり反転するのか」などと熱心な質問が寄せられた。中国では現在、富裕層の台頭と少子化政策によって、子供の教育への関心が強まってきている。実験では子供を差し置いて大人が参加・質問してくる場面が多々あったことが印象的であった。ただ、参加者は蜃気楼現象(砂漠で起きる現象)は知っているが、始皇帝が不老不死の仙薬を求めた史実についてはほとんど知らないことが分かった。



実験会の様子

5. 中国での蜃気楼事情

中国では、始皇帝 [秦の初代皇帝(前259～前210)]が晩年、中国巡視のおり渤海にて蜃気楼を見たという記録がある。そのとき徐福が(中国秦代の方術士)始皇帝の命を受け、東海上の三神山(蓬莱山・方丈・瀛州(えいしゅう))へ不老不死の仙薬を求めにでたという話が有名である。渡航前に中国の「索尼探夢」へ、中国での蜃気楼映像を探してくれるように手配した。

結果、中国のTV局が1988.6.17に山東省蓬萊市より渤海に発生した蜃気楼を撮影したビデオがあり入手することができた(翻訳協力:富山大学 - 市瀬和義, 茹輝[ルイ])。その後、日本で中国の蜃気楼映像を探してみたところ、

NHKスペシャル「始皇帝」(提供:伴禎)

蓬萊市の観光ビデオ(提供:魚津市 - 石須秀知)

を確認できたが、いずれの映像も、同一のビデオを使用していることが分かった。



蓬萊市の海岸より長山(チャンシャン)列島の蜃気楼を見る。蓬萊市より約12～24km

